

## 保護者の保育ニーズとその対応に関する研究 I

須永 進 青木知史\* 齋藤幸子\*\* 山屋春恵\*\*\*

### A Study on the Parent's Needs for Day Care and to Deal with Them I

Susumu Sunaga, Satoshi Aoki, Sachiko Saito, Harue Yamaya

**要旨：**現在、保護者による保育ニーズは多岐にわたり、保育全般への影響が少なくない。そうした実態と具体的対応がどのように行なわれているのか、またそれに伴う課題は何かという視点で、保育所の保育士を対象に調査を進めた。結果としては、保育内容から保育環境や保育士に至るさまざまなニーズがあり、現実には保育所および保育士による対応がそれぞれ図られている。しかしながらなかには、自己中心的で対応に苦慮するケースも約半数近く見受けられるという回答もあり、保育所保育や保育士の保育方法や内容にそれ相応の対応が迫られる事態も明らかになっている。こうした今回の調査の結果をふまえ、今後予想される保護者による子育て支援を含めた多様な保育ニーズに対し、保護者とのさらなる連携や保育所の体制づくり、さらには保育士自身の対応力の向上に加え、それを主体的に担う保育士の心身の健康維持などが課題として考えられる。

**Keywords：** 保育ニーズ、子育て支援、保育所  
Needs for day care, Child care support, Day care center

#### 1. はじめに

近年、就労女性の増加をはじめ、経済的理由やその他何らかの事由により保育を必要とする保護者が増える一方、子育てに伴う不安や戸惑いを抱える親も少なくない。こうした状況を背景に、従来の保育所を中心とする保育所保育に加え、地域の子育て家庭への支援など保育ニーズの多様化が進み、その社会的・構造的支援のシステム化が求められている。

他方、このような背景のなかで、保育所を利用する保護者のさまざまな保育ニーズを支えるシステムとして、第3者評価や苦情解決といった外部による対応の取り組みが行なわれるようになった。

しかしながら、例えば保育の現場に目を転じると、そうした保護者のニーズには子どもにとって望ましいと思われる内容など保育の質的改善につながるケースがある反面、保育を進めていくうえでかえって問題となる、あるいは実施上困難ともいえるニーズも少なくなく、内容によっては保育所あるいは保育士を含め職員に過剰な負担となって、保育上混乱を引き起こすケースも一部で見られるという。

こうした状況に対して、保護者によるさまざまな保育ニーズの実態とそれらに対する保育所や保育士の実践的な事例の分析を行なうことは、今後の保護者に対する対応のあり方やその具体的な方向性を見出すことにつながるものと思われる。

\* 秋草学園短期大学

\*\* 日本子ども家庭総合研究所

\*\*\* 文部科学省初等中等教育局

## 2. 研究目的

保護者の保育ニーズの多様化が進み、実際の保育に少なからず影響を与える事態に至っている現状に注目し、その実態を分析すると同時に、保護者への保育による対応のあり方について考察を加えることが本研究の主目的である。すなわち、保育所保育に対する保護者のニーズ（例えば、保育内容や方法、保育所や保育士への要望など）の実態やそれに対する保育所や保育士の実際的な対応を明らかにし、それらの分析を通して、保護者によるさまざまな保育ニーズの理解を図ると同時に、今後の保育所や保育士による具体的な対応を探る手がかりにしたいと考えている。さらに、今回の調査を保育者養成という視点でとらえなおすと、保育の現場で直面する保育ニーズの実態や保護者への保育所および保育士による具体的な対応を知るための参考になることを期待している。

## 3. 研究方法

本研究では、保育所の保育士を対象に質問紙法による調査を実施し、その目的を達成することとした。特に、今回は北海道・札幌市（石狩市を含む）周辺および首都圏（東京都、埼玉県、神奈川県）の計14ヶ所の保育所保育士187名に質問紙を配布、無記名式の回答形式とし、回答後個別的に封筒で提出、それら回収された質問紙の結果を集計し考察を行なった。

## 4. 調査結果

調査の結果は以下のとおりである。

### 1) 回答者数、属性その他 (%)

まず、今回の調査に回答した保育士数については、女性181名、男性4名、不明2名の計187名で、回収率は72%であった。年齢別では、20代の104名（55.6）を筆頭に、30代43名（23.0）、40代27名（14.4）、50代10名（10.0）、不明3名（1.6）で、20から30代の保育士が全体の約8割近くを占めている。職種別でみると、保育士（施設長、主任保育士を含む）が183名で全体の97.8%で、その他保健師・看護師1名、栄養士1名となっている。

次いで、勤労形態では常勤が168名（89.8）、非常勤・パート17名（9.1）、不明2名（1.1）で、約9割が常勤者である。また、経験年数をみると、5年未満が77名で全体の4割（41.2）で、以下5～10年未満50名（26.7）、15～20年未満19名（10.2）、20～30年未満15名（8.0）、30年以上3名（1.6）。

また、この回答者が担当しているクラスの子どもの年齢について割合の多い順にみると、1～2歳児担当が63名（33.7）で、以下乳児37名（19.8）、3～4歳児29名（15.5）、担任はしていない18名（9.6）、5～6歳児16名（8.6）、その他15名（8.0）、不明9名（4.8）という結果である。回答者の平均的な1週間の勤務時間は、43時間であった。

この保育時間以外に保護者への対応に要する時間を1週間でみると平均1時間18分であるが、この場合、職制や勤務形態による違いを考慮する必要がある。

回答者の最近の体調に関しては、「まあよい」が82名で全体の約4割（43.9）で、「良好」の34名（18.2）を入れると、体調がよいとする保育者は116名、全体で62.1%と過半数を占めている反面、「やや不調」を含め「不調」を訴える割合は58名（31.0）で、今回の調査対象者全体では3割という結果である。

さらに、「現在、工作上困っていること、悩みごと」については、「ある」が82名（43.9）、「ない」が85名（45.5）で、両者の間の差は拮抗している。そのうち現在仕事の上で困っているあるいは悩んでいることについての内容別では68件となり、結果は次のとおりである。1. 仕事量が多い、保育の理想と現実との違い、保育方針に納得がいけないなど、職務上の悩みが20件（41.7）、2. 職員との関係は19件（39.6）、3. 賃金や休日などの就業環境が10件（20.8）、4. 保育士

の育成や資質向上9件(18.8)、5. 保護者の問題やその関係については6件(12.5)、6. 子どもの発達やかかわり方、対応の難しいケースなどで、4件(8.3)となっている。なお不明は約1割(10.1)である。

悩みについての相談相手は、「いる」が170名(90.9)、「いない」9名(4.8)で、9割以上が相談する相手がいると回答している。その相談相手としては、同僚が一番多く117名(68.8)で、次いで家族や友人の92名(54.1)、以下、職場の先輩83名(48.8)、主任保育士64名(37.6)、施設長55名(32.4)、他の職場の保育関係者52名(30.6)、職場指定のスーパーバイザー1名(0.6)、その他3名(1.8)となっている(複数回答)。

この他、「日頃の保育実践や保護者への対応で感じられることや、これからの子育て支援についての意見」に関する自由記述のうち、「保育実践や保護者への対応」については多様なニーズを求める親が増えるなかで、親とのコミュニケーションは不可欠である。また子育て支援に対しては、子どもはもちろん、親支援が必要であると同時に、本当に支援を必要としている親や子どもへの対応が急務である。また、多様化する保育ニーズに対応するために、保育士の資質向上も必要では、といった意見に大きくまとめられる。

## 2) 保護者の保育ニーズとその対応

近年保護者の保育ニーズの多様化が進んでいるが、はじめにその内容と保育所あるいは保育者としての対応について回答を求めている。

回答は、質問の内容を「その他」を含め6項目とし、項目ごとにそれぞれ「ニーズ(要求)例」「どのように対応しましたか」「対応に苦慮しましたか」に記入する形式をとっている。6項目は、1. 保育の内容(遊び、運動、生活指導など)、2. 保育の方法・形態(延長、病時、障害児など)、3. 食事・おやつの内容(食育を含む)、4. 保育士や職員に対して、5. 保育の環境(設備・職員配置など)について、6. その他、である。

全体の記入数の合計は322件で、その割合を各項目別でみると、1. 保育の内容(39.6%)、2. 保育の方法・形態(42.8%)、3. 食事・おやつの内容(36.9%)、4. 保育士・職員に対して(21.9%)、5. 保育の環境(19.3%)、6. その他(11.8%)という結果である。

また、実際に記入された内容を検討する際には、例えば1カ所に複数の回答あるものや内容的に他の項目に該当すると判断できるものについては項目の移動などを行うなどの整理をしている。

### 1. 保育の内容

これは、実際の保育の中身に関するニーズで、保育の方法・形態に次いで多くなっている。その主な事例としては、以下のとおりである。

#### a. 昼寝(午睡)

子どもの睡眠は成長・発達に欠かすことのできない生活習慣のひとつであるが、日中の生活時間の長い保育所では、重要な時間といえる。特に活動後の休息という点からも無視できないが、回答としては「昼寝をさせないでほしい」と「させてほしい」の意見があり、その対応としては「昼寝の必要性」を保護者に伝えるあるいは説明するとしているが、なかには昼寝を「短くする」など個別に対応するケースもみられる。この他、この昼寝に関して、保護者のニーズを受け入れざるをえないケースもあるとの回答が一部にみられた。

#### b. 教育的ニーズ

文字や数を教えてほしいという就学に備えたニーズについては、遊びや生活全般をとおして興味や関心を持てるように働きかけているという対応がその主なもので、幼稚園とは若干異なる対応がとられている。

## c. 外遊び

外遊びに関するニーズでは、「できるだけ外遊びを多く」と、体調不良を理由に「外遊びをさせないで」という異なるニーズがみられるが、例えば体調不良の子どもに対しては外遊びを控え部屋で過ごさせるなど、子どもの状況をみながら対応しているといった回答が多い。また、軽い咳や鼻水が出るなどの症状のあるあるいは子ども自身が外で遊びたいと言った場合、保護者の意向と本人の様子をみて、対応しているという回答である。

## d. 身の回りの世話などの個別的な対応へのニーズ

子どもの保育所での生活のなかで、着替えや鼻をかむなどの個人的な対応への保護者からのニーズも少なくなく、内容的には多様な傾向にあるという。保育内容の改善につながるものもあるが、なかには特定の子どもと遊ばせないでといった自己中心的なニーズも一部でみられる。そうした場合、所長（園長）や主任に伝えるが、対応に苦慮するケースが増えているという。

## e. 歯磨き

歯の衛生について「歯磨きをさせてほしい」というニーズに対し、保育所の方針のひとつとして「口をすすぐ、お茶を飲む」といった方針であることを伝え保護者の理解を求めるなど、その対応にあたっている。

## f. トイレット・トレーニング

保護者に対してトレーニングの時期や方法について説明し、家庭と保育所と協力して対応することの必要性を求めている。

## g. 子どものしつけ

保護者からは、「良い悪いことをしっかり教えて」「静かに話を聞く」といったしつけ面や「指しゃぶり」などの習癖について、その改善を求めるニーズがあり、家庭との連携で対応しているが、保護者や家庭との連携がうまくいかないケースもあるという。

## h. 遊びや保育の内容

遊びや保育の内容に関連しては、「もっと体を動かす」「竹馬はいつから取り入れるのか」「幼稚園のように習い事を」といった、保護者のなかには具体的なニーズもあり、その場合保育所の方針にそって対応している。

## i. 安全・けが・けんかなど

子どもの安全やけが、けんかについて敏感な保護者によるニーズとしては、例えば子ども同士のけんかもそのひとつで対応の難しいケースもあるが、保護者の思いや考えに配慮しながら、対応している。

なお、保護者の保育内容への対応についての記入が73名で、この件で「苦慮した」が25.7%（19名）、「どちらともいえない」が32.4%（24名）、「苦慮していない」は36.5%（27名）になっている。

## 2. 保育の方法・形態

実際に保育の形態に関係するニーズでは、子どもの病気をはじめ、延長や緊急一時など保育時間や保護者の都合によるものが多く、なかには「仕事が休みでも他の用事があるので子どもを預かってほしい」という理由で保育を求める保護者がみられるなかで、ほとんどの保育所の対応として受け入れている実情が回答に多くみられる。また、障がいのある子どもに対しては重度の子どもの受け入れや受け入れ態勢への人的配慮をニーズとしている保護者がいる。これは、保育の形態だけの問題ではなく、保育の対応にかかわる内容といえる。

対応に苦慮したかどうかについては記入が80名で、その内訳は「苦慮した」が35.0%（28名）、「どちらともいえない」が33.8%（27名）、「苦慮していない」は26.3%（21名）である。

### 3. 食事・おやつの内容

食事やおやつに関する主なニーズと対応については以下のとおりである。

#### a. 食事のしつけ

食事にあたっては、偏食や少食など子どもの食事の量や内容のほか、食事のときのマナーなどであり、対応としては、家庭との連携を図りつつ進めている。

#### b. 子どものアレルギーと食事について

最近アレルギーの症状のある子どもへの対応が求められているが、保護者のなかには、保育所や担当保育士に対応の難しいことを要求する保護者もいるため、よく話し合い、その子どもに適した除去食の提供やその内容への理解を図るような配慮をしている。

#### c. 子どもが病気するとき

保護者から子どもの状態を事前に聞いて、準備をしている。そのため、保護者との連絡を取り合うなどして対応をしている。

#### d. 食事の量

保育所の「食事の量が少ないのもっと多く」というニーズに対しては、どの程度必要かを知るために連絡ノートや、直接保護者から話を聞くなどの対応をしている。

#### e. おやつ

保護者のおやつに対するニーズには、食事の場合と同様に量の多少の問題がある。これについては栄養面での配慮はもちろん、夕食への影響が少ない程度にするといった対応がとられている。

#### f. その他、個別的なニーズ

その他、食べ物の好き、嫌いという子どもの嗜好から特定の食材を食べさせないように、というニーズがある場合、保護者との話し合いにより、改善に向けた対策を見つけ、それを実践するようにしている。

また、食事の内容についての情報では、献立表や当日の食事のサンプルを提示するなどしている。

その他、食事の悩みや質問などについては、保護者の話をよく聞いて、必要であれば指導や助言によって問題の解決を図るようにしている。

この食事・おやつに関する保護者のニーズに対し記入67名で、「苦慮した」割合は26.1%（18名）、「どちらともいえない」は18.8%（13名）、「苦慮していない」が46.4%（32名）である。

### 4. 保育士や職員に対して

保育を進めていくための人的パワーである保育士や職員については、以下のとおりである。

#### a. 保護者に対する対応への不満

「話しかけてほしい」からはじまり、電話での応対、職員間のばらつきなど、保護者の不満がその中心になっている。そうした指摘に対しては、職員会議などで対応を検討している。

#### b. 保育以外の内容

保護者の個人的相談、親同士の悪口をきかせる、職員にプライベートな付き合いを求めるなどがそれで、そうした事態を職員間で共有し、連携して対応する。

#### c. 保育所での子どもの様子が知りたい

お迎えのときに、その日のことを詳しく知りたいという保護者に対しては、口頭と連絡ノートなどで対応している。また、懇談会や掲示による情報提供や、年長の子どもの場合はふだんの会話を大切にと保護者に伝える対応をとっている。

#### d. トラブルへの対応に不満

保育所で起きるさまざまなトラブルへの対応に不満を持つ場合は、トラブルの原因を調べ、事実

を明らかにして丁寧に説明する方法で、対応している。

e. 子どもへの対応

子ども同士のトラブルに対する職員の対応や新任保育士の子どもへの対応など、職員で話し合い注意すべき点は改善を図っていくなどの取り組みを行なっている。

f. 担任保育士とのコミュニケーション

延長保育などで、送迎時に担任とコミュニケーションがとれないと言った不満への対応では、個人面談を設けたり、連絡ノートにその詳細を記入するなど、子どもの生活や様子をわかってもらえるようにする。

g. 専門性を要するニーズ

障がいのある子どもの就学相談など専門的な知識を必要とする場合は、専門家や関係機関との連携を図り、解決に向けた対応をしている。

また、保育士や職員に対するニーズでは記入41名で、それに「苦慮した」ケースは48.8% (20名)と、約半数近い割合になっている。また、「どちらともいえない」は17.1% (7名)、「苦慮していない」が29.3% (12名)という結果になっている。

今回の調査に限っては、保育士や職員への保護者の不満が苦慮するケースとして一番多くなっている。

5. 保育の環境

保育所の設備や職員配置については、次のようなニーズが指摘されている。

a. 職員数・配置

まず、「職員数を増やしてほしい」「朝夕の職員体制では職員数が不足している」といったもので、多くはパートの職員で補充するという対応が行なわれている。

b. 進級その他による担任の変更

進級や年度の途中で、担任が変わることへの不安を訴える保護者がいる。その場合、所長(園長)や担任が説明を行い理解に努めている。しかし、保護者のなかには説明後も不安や不満を言うケースもみられる。

c. 行事について

保育所では通常年間の行事を行なっているが、この行事についてのニーズには次のようなものがある。

例えば、「行事が多すぎる」や「親が参加できる行事を増やしてほしい」「運動会や発表会をもっと広い場所で」という意見やニーズがそれである。こうしたケースでは職員会議の話し合いを経て、保護者への説明というかたちで対応している。

d. 保育環境—防犯・安全管理、衛生、事故防止

不審者に対する保育所の対応を求めるもので、口頭による説明や「園だより」などで、その都度伝えている。また、室内温度や耐震についての意見や、事故防止のための設備や対策など、保育環境の整備や改善に対するニーズも少なくないが、その都度保護者に説明を行なうなど、対応している。

この保育の環境で記入は36名で、そのうち「苦慮した」は27.8% (10名)、「どちらともいえない」は36.1% (13名)、「苦慮していない」が36.1% (13名)である。

最後に、「その他」の記入事項については記入が22名で、「苦慮した」が40.9% (9名)、「どちらともいえない」31.8% (7名)、「苦慮していない」13.6% (3名)、不明13.6% (3名)という結果である。なお、内容に関しては上記の5つの各項目に該当するものとしてすでにふれているので、ここでは省略する。

### 3) 保護者による保育ニーズへの対応－基本的方針

次に、保護者による保育ニーズに対し、保育所および保育者としての基本的な対応についてである。すなわち、保育所という組織全体での対応と、子どもや保護者と直接かかわる保育者という立場による具体的な対応をみることにする。

なお、この質問に対する回答は自由記述の形式であることから、内容的に近いものや表記上異なっている趣旨が類似していると判断される意見についてはひとつとしてまとめ、集計を試みている。この保育所の対応としての基本的方針に対する回答では、回答者数が118名、無記入69名であった。また保育者については133名で、無記入は54名であった。

#### 1. 保育所として

保育所の立場から保護者による保育ニーズにどのように対応しているかについては、以下のとおりである。

	人数	(%)
1. 職員会議等で話し合い、対応している。	37	(31.4)
2. 保護者のニーズを（できるだけ）受け入れる	33	(28.0)
3. 保育所の基本方針を理解してもらい、 それにそって対応している。	12	(10.2)
4. 保護者の話をよく聞いて対応している。	11	(9.3)
5. 子どもを第一に考え、対応している。	7	(5.9)
6. 所長（園長）や主任の判断で対応している。	6	(5.1)
7. 保育所のマニュアルに従って対応している。	2	(1.7)
8. その他	10	(8.5)

以上のように、単独の意見では「職員会議での話し合い」が全体の3割強と、他の意見より多いという結果であるが、次の「保護者のニーズをできるだけ受け入れる」と「保護者の話をよく聞いて対応している」などを合わせると、全体の37.3%とそれを6ポイントほど上回り、保護者の意見やニーズを重視している保育所の姿勢がみられる。他方、「保育所の基本方針」や「マニュアル」に従って、また所長（園長）や主任の判断という、どちらかといえば保育所側の方針や方法にそって保護者のニーズを考えるケースでは合計で16.9%と、先の保護者のニーズを重視する意見の約2分の1程度と、保護者のニーズにそった対応をしているケースの少なくないことが明らかになっている。

この他、どの意見にもその基本には子どもを基準に対応が考えられていると思われるが、「子どもを第一に考える」といった保育の基本ともいうべき対応を前面で指摘している意見は、今回のこの調査では全体のわずか5.9%に過ぎなかった。

#### 2. 保育者として

次に、保育者として保護者のニーズにどう対応しているかであるが、次の結果が得られている。

	人数	(%)
1. 所長（園長）や主任に報告、相談後に対応している。	48	(36.1)
2. 保護者の話をよく聞いて対応している。	31	(23.1)
3. 子どもを第一に考えて対応している。	23	(17.3)
4. 保育所（園）の方針にそって対応している。	12	(9.0)

5. 受け入れるかどうかを判断してから対応している。	8	( 6.0)
6. 保育所全体で話し合い、対応している。	7	( 5.3)
7. その他	4	( 3.0)

この結果から、保育所の方針や職員による判断する場合と、保護者や子どもの立場にたった対応の2つに大別される。

まず、保育所や所長、主任といった職員の判断を受けて対応する意見としては、「所長（園長）や主任に報告、相談後」「保育所の方針にそって」がそれで、合わせると51.1%と、全体の過半数に達している。一方、保護者を基準にするという意見に該当するものとしては、「保護者の話をよく聞いて」で、23.1%である。この他、上記の意見とは別に、保育所全体で話し合い、対応している」という意見が5.3%であった。

こうした保護者のニーズに対する対応をみると、回答者の職制の違いにもよるが、保育所という組織での対応と、保育者という組織の一員としての対応には若干の違いがみられるだけでなく、全体としては、例えば、保育所の方針や所長（園長）や主任の指導や助言など、保育所側による判断で対応がなされるケースと、保護者のニーズあるいは子どもを基準にするケースに分けられるなど、対応面に相違が認められる。なかでも、保育者という個人レベルでは、子どもに重きをおいたニーズ対応が保育所という組織的レベルでの対応より多くなっているのは、日常的に直接子どもとかかわっている保育者という立場が大きく起因しているものと思われる。

#### 4) 保護者の保育ニーズにおける苦慮したケースと対応過程

対応に苦慮したニーズを感じることもあるか、という問いに対し「よくある」「時々ある」「たまにある」の回答を合計すると91名(48.6%)となり、約半数が保護者のニーズへの対応に苦慮していた。

上記の問いで「よくある」～「たまにある」と回答した対象者に対し、過去一年間に最も苦慮したニーズについて自由記述で回答を求めたところ74名(39.6%)の記入があった。このうち、「自分は直接経験していない」など10名を除外し、複数事例の回答を分割した結果、71件の事例が得られた。さらに、そのニーズへの対応について、「連携先を含めて、対応過程と苦慮した点」を自由記述で回答を求めた。71件の事例に対し、49件の対応が記入されていた。

この71件を質問Ⅰの各項目に対応させて分類したところ、「1.保育の内容」が23件、「2.保育の方法・体制」が17件、「3.食事・おやつの内容」が7件、「4.保育士や職員に対して」が1件、「5.保育の環境」が5件であった。この他の18件は「保護者に関する問題」であった。以下、各分類ごとに挙げられた事例の特徴とその対応についてまとめる。なお、対応については、質問Ⅰにおける回答と重複しない点を中心に述べる。

##### 1.保育の内容

「けが、いじめ、けんか」に対するニーズに苦慮するとの回答が最も多かった。保育者と保護者で話し合いの場を持つ、保育者同士でカバーし合う、施設面で可能な限り改修を行う、クラスの保護者全体で集会を行う、等の対応が行われていた。子どもから保護者への訴えと、園から保護者への報告が異なった場合の対応の難しさについての記述が複数あった。さらに、子どものけがに対して非常に敏感な保護者に対する対応の難しさがあげられていた。

また、「特定の子どもから離して欲しい」との回答も複数あった。保護者からの要求や思いを受け止めたのち事情を話し合う、保育者から可能な対応を保護者へ示す、他の保育者と連携する、などの対応がとられていた。さらに、精神的に不安定な保護者との対応への困難が述べられていた。



この他、「子どもがいやがるので外遊びをさせないで」「文字や数を教えて」「どろんこ遊びのときは着替えさせて」などが対応に苦慮したニーズとしてあがっていた。

## 2. 保育の方法・体制

「病児の保育」に対するニーズに苦慮するとの回答が最も多かった。子どもが体調の悪い場合の対応として、病児保育の事業を紹介するとの対応もあったが、多くは保育者が通常以上にその子どもに配慮するなど園での対応が行われていた。

「障害児への対応」では、ろう学校との連携、巡回相談の活用など他施設・事業との連携が行われていた。また、保育者が手話を学ぶ、他児の障害への理解を促す工夫などが述べられていた。

「延長保育」および「仕事以外の理由で保育を要望」に関する事例もその内容は多岐に及ぶが、自治体の関連部署と連携をとり対応に当たる事例もあげられていた。

## 3. 食事・おやつの内容

「おやつを手作りに」とのニーズに対し、献立の改善が徐々に図られたが、職員の人数および時間配置に苦慮しているとの報告があった。

「病児への別食」および「嫌いなので特定の食材を食べさせないで欲しい」とのニーズに苦慮するとの回答もあった。

## 4. 保育者や職員に対して

この項目に関連していると分類されたものは1件であり、具体的な対応は記載されていなかったが、この項目は後述の「保護者の問題」と密接に関連した内容でもある。

## 5. 保育の環境

「担任の持ち上がり」に関してのニーズに苦慮するとの報告があった。持ち上がりが不可能な場合、不安を抱く保護者もいるが、時間をかけてコミュニケーションを図ることにより、相互の理解を深める工夫がなされていた。

## 6. 保護者に関する問題

保護者からの「苦情・不満」に苦慮するとの記述が複数認められたが、その場合保護者の話をよく聞き、対応に不備があった点は謝った上で、時間をかけて説明を行うなどの対応がなされていた。

また、保護者からの「一方的な要求」に苦慮するとの回答も多かったが、これに対してはさまざまな対応が報告されていた。例えば保育所における子どもの様子を詳しく伝えることで保護者の理解を求めることや、必要があれば保護者全員に連絡をとり、話し合いの機会を設けるなどの対応がとられていた。また、要求の実現が無理な時は、その理由を説明したうえで理解を求め、別の方法を検討する、などの対応も報告されていた。

「無関心な態度、園・保育者まかせ」に関する回答も複数あったが、これに対して具体的な対応は記載されていなかった。

「親個人の問題への対応」に関しては、保育者がよく話を聞くという対応以外に、行政の支援体制を説明したり、医療機関との連携をとるとの対応が報告されていた。

「親同士の関わり」に関する回答も内容は様々であったが、子ども同士のけんかから親間のトラブルに発展した事例も報告されていた。この場合、保護者に園におけるトラブル解決の方針を説明し、問題を感じた場合は子どもの言い分だけではなく保育者からの説明も受けて欲しい旨を伝え、保護者同士の問題に発展しないよう対応がなされていた。

## 5) 保育者による保護者観

次に、保育士の中から近年の保護者がどう映っているのか、という保護者観についてであるが、質問項目は18項目とし、それぞれ4段階（1. 当てはまる、2. やや当てはまる、3. あまり当て

はまらない、4. 当てはまらない) から1つ選択し、記入する形式の回答になっている。また、集計にあたっては「やや当てはまる」は「当てはまる」に、「あまり当てはまらない」は「当てはまらない」に含めるなど、大きく2つの群に分けて分析を行なった。

#### 1. 保護者の権利意識

保育に関して保護者の権利意識が強いかどうかについては、保育士の40.1%が「当てはまる」という回答である。この結果については、保育士を対象に行った調査「保育所における子育て相談に関する調査研究」(須永ほか、1999年、以下「調査」と略)においてもそれに近い結果となっていることから、10年経た現在においても同じ程度保護者に権利意識を感じている保育士がいるということである。

#### 2. 子どもとの接し方や遊び方について

次に、子どもとの接し方や遊び方のわからない保護者がいるという認識を保育士の約7割(69.5%)が持っているという。この結果についても先に実施した筆者(=須永ほか)による「調査」とほぼ同じ割合(68.8%)を示していることから、ここ数年、保育士によるこうした保護者観が、高い割合で推移していることがこの結果から理解される。

#### 3. 保育所や保育者に対する難しい要求

今回保護者の権利意識が高いとみる保育士のいることが明らかになったが、同時に保育所や保育士への難しい要求を持っている保護者が存在していると、3割を超える保育士が回答している。またそのなかに自己中心的なものや自分の子どもだけよければという身勝手とも思える要求も少なくないという。

#### 4. 自己中心的

保護者に対し、自己中心的とみている保育士の割合は63.1%となっている。すなわち、保育士の半数以上は、こんにちの保護者に対してさまざまな面で自己中心的であるとみている。

#### 5. 子どもへの過保護・過干渉

上記2.のように、子どもへの接し方やかかわり方がわからない保護者のなかには、過保護になったり、必要以上に干渉を行なうなど不適切な対応がみられると指摘する保育士が67.4%いる。この結果については、すでに参考している筆者(=須永ほか)の「調査」結果とほぼ同じ割合(61.6%)であることから、ここ数年間は変わらない傾向といえる。こうした保護者の子どもへの対応の延長線上に、保育所や保育士個人に対する難しい要求や自己中心的ともいえるニーズがあるように思える。

#### 6. 子どもの言動に過剰な反応・対応をする

保護者の性格や育児経験の多少もあるが、子どもの言動に過剰な反応や対応をする保護者がいるという回答が保育士の48.7%みられる。

#### 7. 子どもの放任・無関心

子どもへの過保護・過干渉の反対の対応として、子どもを放任したり、無関心であったりする保護者の存在について保育士の42.2%が認めている。子どもの関心がなく、かかわりの少ないと思われる保護者ではあるが、保育所や保育者に求めるニーズがないわけではなく、保護者自身ができない(あるいはやらない)ことを要求するケースがあるという。

#### 8. 子育てへの負担感・不安感

保護者が子育てに負担感あるいは不安感を持っていると思う保育士は62.1%と高くなっている。しかし、これは日々の保護者の様子や日常の会話を通しての保育士による判断であることから、妥当な結果と思われる。

#### 9. 子どもに手をあげたり、大声でしかったりする。

保護者の子どもに対する対応のうち、しつけの一環としてこうした行為のある者の存在を38.6%の保育士が認めている。子育てに不安や自信の持てない保護者に加え、ときにはこうした感情的で不適切のとれる保護者の存在、対応を保育士の約4割近くが認識しているという結果になっている。

#### 10. 保護者とのコミュニケーション

子どもの保育は保育所や保育士だけでなく保護者との連携が不可欠であることから、保護者とのコミュニケーションは保育の重要なファクターである。この件については46.6%の保育士が取りづらいと回答している。また、こうしたコミュニケーションが取りづらく、日常的にコンタクトの少ない保護者の場合には、そのことが原因となってその対応が難しく解決を遅らせる結果を招くこともあるという。

以上のように、保育士がみた保護者の印象であるが、上記の項目がどちらかというとマイナスのイメージであるのに対して、次は保護者に対するプラスのイメージを聞いている。

#### 11. 子どもへのしつけや教育について

保育士の目から、近年の保護者が子どもへのしつけや教育に熱心とみている割合は36.9%で、これはよい意味であれば子どもの心身の成長・発達を促す反面、過度になるとかえって子どもにさまざまな影響を与える場合があるなど両面性を有する内容ではあるが、この質問に限っては保護者がしつけや教育に関心があり熱心であるという見方を3割以上の保育士がしていることがわかる。特に、熱心であるがゆえにニーズについても、保護者によっては過剰ともいえる要求にでる場合もあるという。

#### 12. 子どもの食事や健康に配慮

子どものしつけや教育とともに、保護者の関心のあるニーズに食事や健康がある。関心があり、気を遣っているとみている保育士は51.4%で、二人にひとりの割合になっている。

#### 13. 子どもの生活リズム

子どもの豊かな成長・発達にとって生活のリズムの形成は極めて大切であり、保育所保育の大きな役割でもある。また、この生活リズムについては家庭との連携も不可欠で、この点に関して保育士の35.8%が保護者は生活リズムを大切にしていると回答している。

#### 14. 父母（家族）が協力して子育てを

核家族化やひとり親家庭の増加など、家族形態や構成員の少数化が進むなかで、父母をはじめ家族の協力による子育ての重要性が増しているが、保育士の視点でいまの保護者の子育てが協力して行なわれているとみる割合は74.8%という高い回答が得られている。

#### 15. 仕事と子育ての両立を通して、生活を楽しんでいる保護者

保育士の6割（60.9%）は、保護者が仕事と子育ての両立をし、生活を楽しんでいると認識していることがこの結果からわかる。

#### 16. 保育所の保育方針に協力的

いまの保護者の8割以上（82.4%）は保育所の保育方針に協力的であるといった保育士による評価がこの調査から明らかになっているが、どの程度保護者が理解し、協力的なのか、その実際的な内容についてはこの質問では不明である。

#### 17. 保護者同士の関係

保護者同士の関係では、その交流がさかんとみている保育士が約6割という結果である。保育士との関係とは異なり、さまざまな子育てや地域の情報の交換を目的に、保護者同士の交流が図られていると保育士はみている。

#### 18. その他について

その他については、特記すべきものがないので省略する。

## 6) 保護者と子育て支援

近年、保育所の機能として期待の大きい子育て支援について、その実質的な役割を担う保育士はどのように考えているか、その問いに対しては以下のとおりである。

	人数	(%)
1. 子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべき。	95	(50.8)
2. 子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する 必要が生じた場合のみ、限定的な支援が望ましい。	67	(35.8)
3. 保育の内容を充実させることで、保育所における子育て支援は十分である。	6	(3.2)
4. その他	9	(4.8)
不明	10	(5.3)

この結果をみると、半数（50.8%）にあたる保育士は、子育て支援の充実に賛意の回答を示している。また、家庭を基盤にその補完や必要程度の子育て支援への支持が保育士の約3人にひとりの割合になっている。この他、現状の子育て支援で十分とする意見はわずかで、この調査の調査対象になった保育士の多くは、現行の子育て支援に対し、支持の傾向の強いことがこの結果から明らかである。

## 5. 考察

以上の調査結果をふまえ、1) 保育ニーズの多様化の実態とその特性、2) 保育所および保育士による実際的な対応と問題点、3) 苦慮するケースへの対応策、の3つの視点から考察する。

### 1) 保育ニーズの多様化の実態とその特性

まず、本文で明らかになったように保護者による保育ニーズは、遊びや生活、食事、環境といった保育全般から保育所や保育士に関するものまで多岐にわたっている。また子どもの保育へのニーズに加え、保護者自身の思いや期待が含まれる場合もみられる。例えば、「話かけてほしい」「熱が多少あっても預かってほしい」などがそれである。また、「仲間はずれやいじめがあるので、子どもをしっかりとみてほしい」「子どもの様子を伝えて」といった保育士への不満も少なくない。なかには、「（子どもの）送迎をしてほしい」など、明らかに無理ともいえる要望も一部みられる。こうした状況はおそらく稀有なケースではなく、少なからずどの保育所にもあるのではないだろうか。

その主な特性としては、保護者の自己中心性が背景にあると思われる。今回の調査でも保育士の6割以上がこの点を指摘している。例えば、「鼻をかんでほしい」や「嫌いな野菜が食べられるようにして」はその代表的な例である。またその他、「数や文字を教えて」「延長保育の時間を延ばして」から「トイレトレーニングをして」といった保育所や保育士への期待や保護者の依存的とも思えるニーズなど、個別対応を強く要求するニーズなどにそうした傾向が表れている。

### 2) 保育所および保育士による実際的な対応と問題点

このような背景や特性の持つ保護者によるニーズに対し、まず、保育所としては「職員会議等の話し合い」で、また保育士では所長（園長）や主任に相談して対応するケースがそれぞれ3割程度と多いが、これ以外では、保護者のニーズを受け止め（話を聞いて）、可能な限りそのニーズにそった対応を行なっているケースの他、保育所の規定（マニュアル）や所長、主任の判断に照らして対

応するケースである。どちらのケースにおいても、明らかに個人的で自己中心的なニーズでない限り、基本的には保護者のニーズを受け入れる方向での対応が行なわれている。しかし、その線引きが難しく、苦慮するケースも少なくないことが今回の調査で明らかになっている。特に特定な子どもへの保育ニーズの場合、他の子どもとの関連や保育所全体の流れ、保育所保育の特性といった関係で難しい判断を迫られているケースがある。そのような場合、「一人一人の保護者の状況を踏まえ（中略）保護者の養育力の向上に資するよう、適切に支援する」（『保育所保育指針』2008年）という点を基本に、保護者のニーズに対応することが考えられる。なお、対応にあたって「子どもを第一に考えて」という意見は、保育士による対応で17.3%、保育所の立場による対応ではわずか6%に過ぎない。保護者による保育ニーズは、結局何のために、また誰のために行なわれるものなのか、改めてそのあり方を問う必要があるように思われる。

この他、多様化する保護者への対応を進めていく上で考える必要のある問題点のひとつに、保育士の就労環境がある。今回の調査でもその一端が明らかになっている。

まず勤務時間をみると、1週間に平均43時間で、1日8時間（週休2日）の40時間よりやや多いという結果である。ただし、45時間以上の平均を超えて勤務している保育士は全体で半数を超えている。さらに、仕事上の悩みを持っている保育士は4割で、その多くは仕事量の多さを指摘している。例えば、保護者への対応については1週間に平均1時間18分程度費やしているという。なかには2時間以上対応にかかっている保育士も1割強いる。また、職場の人間関係の難しさをあげている保育士も少なくない。こうした就労環境のなかで、自身の体調について約3割の保育士が不調を訴えている点は看過できない。

今後も保護者による保育所保育へのニーズの多様化と量的拡大の他、子育て支援といったより広い保育ニーズが予想されることから、保育士の就労環境の整備と見直しを進める必要がある。

### 3) 苦慮するケースへの対応策

現在、保護者によるさまざまな保育ニーズがあるなかで、特に苦慮するケースの対応策としては、次のことが考えられる。

1. まず、保育所が行なう保育について、日々の「子どもの送迎時の対応、相談や助言、連絡や通信、会合や行事など」（「保育所保育指針」）を通して保護者に説明して理解を図るなど、保護者との信頼関係を築くようにし、保護者によるニーズには適切に対応できる体制を整えておくことが大切である。特に、保育所内の職員同士のチームワークもその重要な要因である。
2. 今回、改訂された『保育所保育指針』（2008年）に「保護者に対する支援」の項目が追加され、保護者への援助的対応の重要性が指摘されている。そのため、保護者に対応するための実践的な方法を学ぶなど、現任保育士の資質向上を図る必要がある。特に、受け入れが困難なものや苦慮するケースについては、事例の検討を行い、その対応方法を職員間で共有し、実践することが大切である。また、必要に応じて、スーパーバイザーの指導を受けることも考えられる。
3. 次に、保護者によるニーズのうち、自己中心的で、「自分の子どもの利益だけ」を目的とする場合、対応に苦慮するケースが少なくない。特に、普段かかわりの少ない、あるいはコミュニケーションの取りづらい保護者のケースに、そうした傾向がみられるという。基本的にはコミュニケーション不足がその大きな要因と考えられるため、まず保育士自身のコミュニケーション能力を高めることが必要である。そのためには、現任保育士が研修や学習によって自己の *counseling mind* の育成や相談・指導技術の獲得を図ることで、保護者の持ち込むニーズ、とりわけ対応に苦慮するケースへの解決につながるものと思われる。
4. 同時に、保育所を利用する子どもの増加と並行して、さまざまなニーズを持つ保護者の増えることが予想される。多様化するニーズや難しい要求の提示に対応を迫られる保育士の心身の健

康を支えるサポート体制の整備はもちろん、就労環境全体の見直しや改善に向けた努力を行う必要がある。

5. この他、保護者の子育て観や保育所・保育者観が変わりつつあるなかで、現任保育士の対応能力の向上に加え、保育者養成において保護者のさまざまな保育ニーズを理解し、適切に支援するための援助技術に関する実践的学習の導入も今後の緊急的課題といえる。

## 6. おわりに

以上のように、保護者による保育ニーズとその対応の一端が明らかになったが、そのうち苦慮するケースの実態や対応する保育士自身の問題（悩みや健康面）のあることも合わせて今回の調査で判明した。今後も保護者のニーズの多様化は十分予想されることから、これまで以上に保護者への連絡や関係のあり方が重要になる。また、保護者との対応について保育所としての十分な体制はもちろん、それに対応できる保育士一人ひとりの資質向上も不可欠である。同時にその対応にあたっては保護者との関係で検討される傾向が少なくないが、保育の主体は子どもであり、「子どもの最善の利益」が保障される方法で取り組まなければならないとする保育の理念を、保護者も、また保育する側も忘れてはならないであろう。

## 付記

- \* 最後に、この調査に協力いただいた保育所（園）と職員の方々に謝意を表します。
- \*\* 本研究は、筆者（＝須永）の前任校である藤女子大学の「人間生活学部研究倫理委員会規定」第4条（審査の項目）、第5条（審査の基準）に基づく審査において、承認を得ています（2009年9月16日）。

## 参考文献

- 尾木直樹（2008）『バカ親って言うな！ーモンスターペアレントの謎』角川書店
- 厚生労働省（2008）『保育所保育指針』
- 上村真生、七木田敦（2008）「保育士のサポート源構造に関する実証的研究」『小児保健研究』第67号第6号、p854－860.
- 小林幸平、箱田琢磨、小山智典ほか（2006）「保育士におけるバーンアウトとその関連要因の検討」『臨床精神医学』35. p 563－569.
- 財団法人子ども未来財団（2004）「平成15年度子育てに関する意識調査（概要版）」
- 須永 進、巷野悟郎ほか（1999）『子育て相談の手引』社会福祉法人日本保育協会
- 須永 進（2004）『子どもの福祉ー最善の利益のためにー』八千代出版
- 須永 進（2007）『改革期の保育と子どもの福祉』八千代出版
- 須永 進（2008）『子育て支援を考えるために』蒼丘書林
- 須永 進、巷野悟郎、曾根秀子ほか（2000）『保育所における子育て相談に関する調査研究報告書』社会福祉法人日本保育協会 p126－140.
- 須永 進、荻須隆雄ほか（2005）『保育及び子育て支援に関する調査研究報告書』社会福祉法人日本保育協会 p59－71.
- 須永 進、野坂 勉、荻須隆雄ほか（2006）『保育士の資質向上に関する調査研究報告書』社会福祉法人日本保育協会 p165－192.
- 須永 進、青木知史、趙 晤衍（2005）「日韓の子育て観に関する比較研究」『秋草学園短期大学紀要』第22号、p113－144.
- 高野 陽（2009）「保育所保健と改訂保育所保育指針」『東洋英和女学院大学大学院紀要』第5号.

付表Ⅰ 保護者の保育に対するニーズ（要求）例および対応策等の記入件数

	内容の記入あり		対応策記入あり	対応に苦慮
	件数	%*	%**	%**
1. 保育の内容	74	39.6	98.6	25.7
2. 保育の方法・形態	80	42.8	100.0	35.0
3. 食事・おやつの内容	69	36.9	97.1	26.1
4. 保育士や職員に対して	41	21.9	100.0	48.8
5. 保育の環境	36	19.3	97.2	27.8
6. その他	22	11.8	100.0	40.9
計	322	—	—	—

\*回答者 187 名に対する

\*\*内容記入ありに対する

付表Ⅱ 保護者の保育ニーズに対する基本方針の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%
園として	118	63.1
保育者として	133	71.1
その他	5	2.7

付表Ⅲ－１ 保護者の保育ニーズへの対応に苦慮することがあるか

	件数	%
よくある	6	3.2
時々ある	41	21.9
たまにある	44	23.5
ない	71	38.0
不明	25	13.4
計	187	100.0

付表Ⅲ－２ 保護者の保育ニーズへの対応に最も苦慮した事例および対応過程等の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
最も苦慮したニーズ例	74	39.6
対応過程と苦慮した点	50	26.7

\*回答者 187 名に対する

付表Ⅳ 最近の保護者に対する印象

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	不明	合計
	%*	%*	%*	%*	%*	%*
権利意識が強い	7.5	32.6	42.2	12.8	4.8	100.0
子どもとの接し方や遊び方がわからない	21.4	48.1	24.6	4.8	1.1	100.0
園や保育者に難しい要求をする	4.8	31.0	50.3	9.6	4.3	100.0
自己中心的	15.5	47.6	29.4	5.9	1.6	100.0
子どもに過保護・過干渉	13.9	53.5	27.3	3.2	2.1	100.0
しつけや教育に熱心	7.0	29.9	55.6	5.3	2.1	100.0
子どもの言動に過剰な反応・対応をする	13.4	35.3	43.9	5.9	1.6	100.0
子どもを放任・無関心	6.4	35.8	42.2	13.9	1.6	100.0
子育てに負担感・不安感を持っている	8.6	53.5	35.3	1.1	1.6	100.0
子どもに容易に手をあげたり、大声でしかったりする	7.0	31.6	40.6	19.8	1.1	100.0
コミュニケーションがとりづらい	5.9	40.6	41.2	11.2	1.1	100.0
子どもの食事や健康に気を配っている	7.5	43.9	44.4	3.2	1.1	100.0
子どもの生活リズムを大切にしている	4.8	31.0	54.0	9.1	1.1	100.0
父母（家族）が協力して子どもを育てている	12.8	62.0	23.0	1.1	1.1	100.0
仕事と育児を両立して生活を楽しんでいる	5.9	54.5	34.8	3.2	1.6	100.0
園の保育方針に協力的である	19.3	63.1	15.0	0.0	2.7	100.0
保護者同士の交流が盛んである	16.0	43.3	33.2	2.1	5.3	100.0

\*回答者 187 名に対する



付表V 子育て支援に対する考え

	件数	%
子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべきである	95	50.8
子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する必要性が生じた場合のみ限定的な支援が望ましい	67	35.8
保育の内容を充実させることで、保育所における子育て支援は十分である	6	3.2
その他	9	4.8
不明	10	5.3
計	187	100.0

付表VI-1 回答者の性別

	件数	%
男性	4	2.1
女性	181	96.8
不明	2	1.1
計	187	100.0

付表VI-2 回答者の年齢

	件数	%
20代	104	55.6
30代	43	23.0
40代	27	14.4
50代	10	5.3
60代以上	0	0.0
不明	3	1.6
計	187	100.0

付表VI-3 回答者の職種

	件数	%
保育士	168	89.8
主任保育士	10	5.3
施設長	5	2.7
保健師・看護師	1	0.5
栄養士	1	0.5
その他	1	0.5
不明	1	0.5
計	187	100.0

付表VI-4 回答者の就労形態

	件数	%
常勤	168	89.8
非常勤・パート	17	9.1
不明	2	1.1
計	187	100.0

付表VI-5 保育職としての経験年数

	件数	%
5年未満	77	41.2
5～10年未満	50	26.7
10～15年未満	21	11.2
15～20年未満	19	10.2
20～30年未満	15	8.0
30年以上	3	1.6
不明	2	1.1
計	187	100.0

付表VI-6 担当しているクラスの年齢

	件数	%
乳児	37	19.8
1～2歳児	63	33.7
3～4歳児	29	15.5
5～6歳児	16	8.6
クラス担任はしていない	18	9.6
その他	15	8.0
不明	9	4.8
計	187	100.0

付表VI-7 回答者の最近の体調

	件数	%
良好	34	18.2
まあよい	82	43.9
やや不調	47	25.1
不調	11	5.9
不明	13	7.0
計	187	100.0

付表VI-8 仕事上困っていること、悩みの有無

	件数	%
はい	82	43.9
いいえ	85	45.5
不明	20	10.7
計	187	100.0

付表VI-9 悩みごとの内容の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
記入有り	48	25.7
記入無し	139	74.3

\*回答者 187 名に対する

付表VI-10 悩み事があるときの相談相手の有無

	件数	%
いる	170	90.9
いない	9	4.8
不明	8	4.3
計	187	100.0

付表VI-11 相談の相手

	件数	%*
同僚	117	68.8
職場の先輩	83	48.8
施設長	55	32.4
主任保育士	64	37.6
職場指定のスーパーバイザー	1	0.6
他の職場の保育関係者	52	30.6
保育関係者以外の家族や友人など	92	54.1
その他	3	1.8
不明	0	0.0

\*相談相手あり 170 名に対する

付表VI-12 日頃の保育実践や保護者への対応で  
感じられることや、これからの子育て  
支援についての意見に関する記述  
件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
記入有り	56	29.9
記入無し	131	70.1

\*回答者 187 名に対する

## 保護者の保育ニーズとその対応に関する調査票

以下の設問で、当てはまる項目の番号に○をおつけください。表や（ ）内にはご記入ください。

I. 保護者の保育に対するニーズ（要求）が多様化していますが、最近はどのようなニーズがありますか。1 から 6 の各項目について回答してください。該当がない場合は「なし」とご記入ください。

	ニーズ（要求）例	どのように対応しましたか	対応に苦慮しましたか
1. 保 育 の 内 容（遊び、 運動、生活 指導など）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
2. 保 育 の 方 法・形 態 （延長、病 時、障害児 など）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
3. 食 事・おや つ の 内 容 （食 育 を 含む）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
4. 保 育 士 や 職 員 に 対 して			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
5. 保 育 の 環 境（設備・ 職 員 配 置 など）につ いて			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
6. その他			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない

Ⅱ. 保護者による保育ニーズに対し、基本的方針としてはどのように対応していますか。

1. 園として

2. 保育者として

3. その他

Ⅲ. 近年、保護者による保育ニーズのなかには、その対応に苦慮するケースもあると言われていますが、貴園の保護者にそういったニーズをお感じになることがありますか。1つ○をつけてください。

1. よくある    2. 時々ある    3. たまにある    4. ない

上記で1～3をお選びの方にお聞きします。

SQ3-1 過去1年間であなたが最も苦慮したニーズ（要求）について、具体的にお書き下さい。  
前のページの設問Ⅰですでに記載の場合は、その番号を記入してください。

SQ3-2 そのニーズへの対応について、連携先を含めて、対応過程と苦慮した点をお書き下さい。

IV. ふだんあなたが接している保護者について、最近どのような印象をお持ちですか。以下の項目が当てはまるか否か1～4の該当する番号1つに○をつけてください。

1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 あまり当てはまらない 4 当てはまらない

1. 権利意識が強い…………… 1—2—3—4
2. 子どもとの接し方や遊び方がわからない…………… 1—2—3—4
3. 園や保育者に難しい要求をする…………… 1—2—3—4
4. 自己中心的…………… 1—2—3—4
5. 子どもに過保護・過干渉…………… 1—2—3—4
6. しつけや教育に熱心…………… 1—2—3—4
7. 子どもの言動に過剰な反応・対応をする…………… 1—2—3—4
8. 子どもを放任・無関心…………… 1—2—3—4
9. 子育てに負担感・不安感を持っている…………… 1—2—3—4
10. 子どもに容易に手をあげたり、大声でしかったりする… 1—2—3—4
11. コミュニケーションがとりづらい…………… 1—2—3—4
12. 子どもの食事や健康に気を配っている…………… 1—2—3—4
13. 子どもの生活リズムを大切にしている…………… 1—2—3—4
14. 父母（家族）が協力して子どもを育てている…………… 1—2—3—4
15. 仕事と育児を両立して生活を楽しんでいる…………… 1—2—3—4
16. 園の保育方針に協力的である…………… 1—2—3—4
17. 保護者同士の交流が盛んである…………… 1—2—3—4
18. その他ありましたらお書きください（ )

V. 保育所の機能のひとつに保護者に対する子育て支援がありますが、あなたのお考えに近い項目1つに○をつけてください。

1. 子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべきである。
2. 子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する必要が生じた場合のみ限定的な支援が望ましい。
3. 保育の内容を充実させることで、保育所における子育て支援は十分である。
4. その他（ )

VI. ご記入者についてお尋ねします。

1. 性 別                      1. 男性      2. 女性
2. 年 齢                      1. 20代   2. 30代   3. 40代   4. 50代   6. 60代以上
3. 職 種                      1. 保育士   2. 主任保育士   3. 施設長   4. 保健師・看護師  
5. 栄養士   6. その他（ )
4. 就労形態                      1. 常勤      2. 非常勤・パート
5. 保育職としての経験年数は何年ですか。  
1. 5年未満                      2. 5～10年未満                      3. 10～15年未満  
4. 15～20年未満                      5. 20～30年未満                      6. 30年以上

6. 現在担当しているクラスの児の年齢を、お選びください。

1. 乳児 2. 1～2歳児 3. 3～4歳児 4. 5～6歳児  
5. クラス担任はしていない 6. その他 ( )

7. 平均的な1週間の勤務時間は何時間ですか。残業を含めてご記入ください。

1週間で ( ) 時間

8. 保育時間外で、保護者への対応にかかる時間はどれくらいありますか。

(例：相談にのる、話し相手をする、電話で連絡する、要支援家庭への対応など)

1週間で ( ) 時間くらい

9. 最近の体調はいかがですか。 1. 良好 2. まあよい 3. やや不調 4. 不調

10. 現在、工作上困っていることや悩みごとがありますか。 1. はい 2. いいえ  
よろしければ、その内容をお書きください。

--

11. 工作上、困ったことや悩みごとがある時の相談相手はいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

SQ11-1. 相談相手がある場合どなたですか。いくつでも○をおつけください。

1. 同僚 2. 職場の先輩 3. 施設長 4. 主任保育士  
5. 職場指定のスーパーバイザー (職種は、 )  
6. 他の職場の保育関係者 (個人的繋がり)  
7. 保育関係者以外の家族や友人など  
8. その他 ( )

12. 最後に日頃の保育実践や保護者への対応の中で感じられることや、これからの子育て支援などについてご意見がおありでしたら、ご自由にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました